第５回身寄りがない方への意思決定支援研修会

講演：『 患者本人と疎遠な家族との関わり方を考える 』
～ナラティヴアプローチ～

講師：琉球大学病院　地域・国際医療部　臨床倫理士　金城 隆展　氏

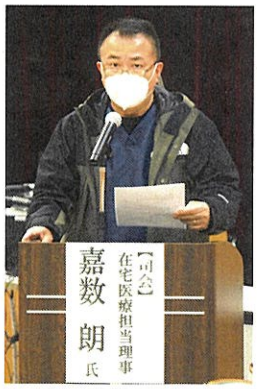
○日　時：令和６年１月２９日（月）　午後７時００分～９時００分
○場　所：沖縄県医師会・３階ホール
○参加者：３０名

【目的】身寄りがない方（家族や親類へ連絡がつかない状況にある人、家族の支援が得られない人含む）が、人生の最終段階においても安心して必要な医療・介護が受けられる地域を目指し、事例に対する考え方についてナラティヴアプローチを学ぶ。

【対象】那覇市内医療・介護従事者、行政等

【考察】参加された職種は約４割が看護師、３割が社会福祉士であった。また、参加者全員が参考になったとの回答があった。参加者より、「支援していく中で、本人が困っていることではなく、支援者の困りごとを解決するために動いてしまいそうになる」、「日々の仕事に追われて最大限の倫理を目指すことを諦めている」など、知らないうちに患者本人を置き去りにしている現状があった。しかし、研修会を通して「今後は患者・利用者の最大限の幸福を考えて支援していきたい」、「相手を変えるのではなく、自分自身が変わる覚悟で相手に向き合いたい」など、非常に良い方向へ参加者の意識が変わったのは大変良かった点である。また、多くの参加者が「新鮮な気持ちになった」、「明日からの業務に活かしたい」という感想が多数あり、本来我々が目指さなければならない「患者の幸福の実現」、さらには「真の多職種連携」に向けて、実りある研修会になったと思われる。

講師：金城 隆展 氏



司会：嘉数 朗 氏

全　体　風　景

令和5年度　那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第5回 身寄りがない方への意思決定支援研修会 ～ナラティヴアプローチ～

日　時：令和6年1月29日（月）　19時00分～21時00分

場　所：沖縄県医師会・3階ホール

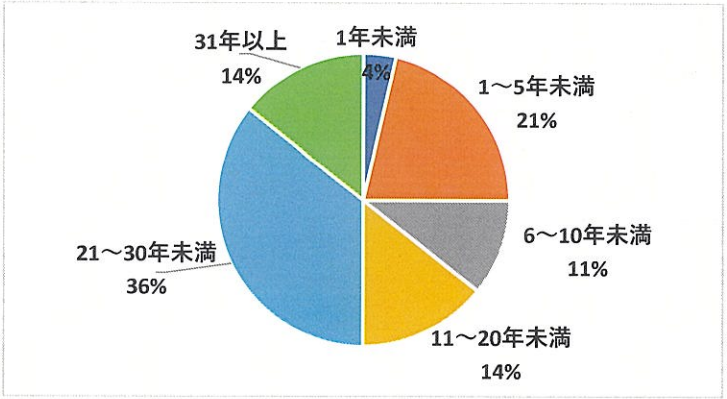
講　師：琉球大学病院　地域・国際医療部　臨床倫理士　金城 隆展 氏

参加者：30名

回答者：28名（約93%）

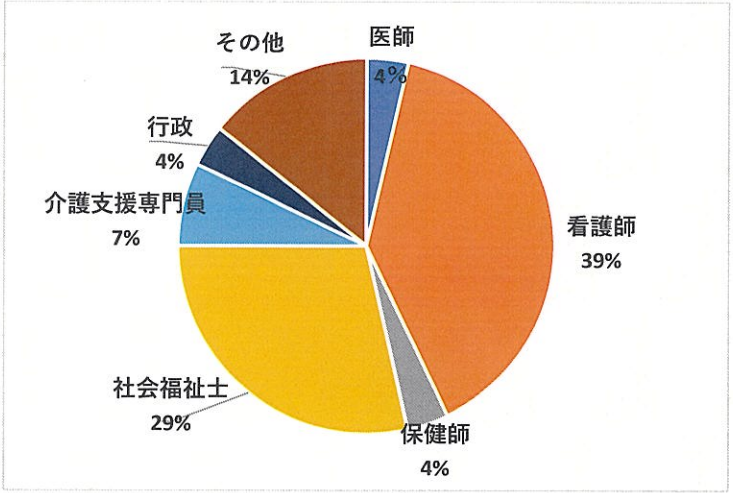
経験年数

選択肢	数	割合
1年未満	1	4%
1～5年未満	6	21%
6～10年未満	3	11%
11～20年未満	4	14%
21～30年未満	10	36%
31年以上	4	14%
計	28	100%



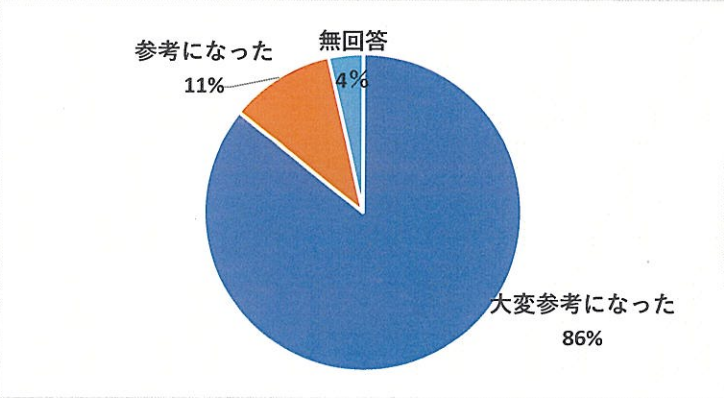
問１．職種について教えてください。

選択肢	数	割合
医師	1	4%
看護師	11	39%
保健師	1	4%
社会福祉士	8	29%
介護支援専門員	2	7%
介護職	0	0%
行政	1	4%
その他（ケアプランナー、訪問マッサージ）	4	14%
計	28	100%



問２．『患者本人と疎遠な家族との関わり方を考える ～ナラティヴアプローチ～』（臨床倫理士：金城 隆展 氏）は参考になりましたか。

選択肢	数	割合
大変参考になった	24	86%
参考になった	3	11%
まぁまぁ参考になった	0	0%
あまり参考にならない	0	0%
無回答	1	4%
計	28	100%



問３．グループワークはいかがでしたか。また、全体を通してご意見・ご感想等をお聞かせ下さい。

・短い時間で多くの意見が聞け参考になりました。患者・利用者の最大限の幸福を考えて支援ができるように頑張ります。基本だと知りながら実践ではつい忘れてしまうことに驚かされます。

・相手を変えるのではなくて自分を変える！小さい頃から言われたりしたけど、こんなに深い意味があるとは思いませんでした。すごい。ありがとうございます。

・講義、グループワークを通して患者さんの幸福を考えることの大切さ、また仕事に追われて自分自身も忘れがちになっていることに気づくことができました。今日の学習を意識しながら、明日より仕事をしていきたいです。ありがとうございました。

・さまざまな職場、職種の方と意見交換ができとても良かったです。ついつい考え方が凝り固まっている部分が和らぎ、とても新鮮な気持ちになりました。ありがとうございました。

・他職種の方々の意見を聞くことが出来良かった。ファシリテーターの佐久川さんのリードが良かったです。患者さんの最大限の幸福をしっかり考えてこれからの支援に繋げていきたいと思いました。ありがとうございました。

・日々の支援のケースに近く、大変心に響くグループワークになりました。支援の尺度は個々それぞれだということは日常感じていたことですが、「対象者の方の幸福」を目指して、今後も進んでいこう！と思えました。金城先生ありがとうございました。

・同じような経験をしたことがある事例でのグループワークだったので、自分の支援も振り返りながら考える事が出来た。支援していく中で、本人が困っていることではなく、支援者の困りごとを解決するために動いてしまいそうになることがあるので、本人が主であることを常に思い出しながらやっていきたいと思いました。ありがとうございました。

・以前、夫が脳幹出血で全身麻痺、閉じこもり症候群になった妻から「私の夫は自分からは何も発することは出来なくなり、皆さんの手がないと生活は出来ません。でも私の夫の心を置き去りにしないでほしいと願うばかりです。」と話しをされた時にズドーンと重く来ました。それから心を置き去りにしないように意識してきましたが、今日の先生のお話を聞いて「幸福」↔「心」は同じなんだと感じました。ありがとうございます、また学びに来ます。

・日頃の意思決定のあり方を振り返ることができました。倫理には「これでいい」ということはなく、常にその人やその人の周りの人の幸福を考え続ける必要があるなと思いました。

・本人やその家族を変えようとするのではなく、私たち支援者がその職種や業務にとらわれず自ら変わること、それによって多職種と連携を取り本人の最大限の幸福を目指すことが大事であると知りました。実践するのは難しそうですが、少しでも患者自身が幸せになれる方法を考える事が出来るよう活用したいと思います。

・事例を通して意思決定支援について、皆で考えシェアし理解が深まりました。ご本人を中心に「主」にということを大切に、寄り添い関わっていきたいと改めて思いました。利用者さんの物語を大切にしていきたいと思います。

・外科診療など実際の現場ですごく気づくことが多かった。私自身も患者本人を置き去りにしていることに気づかされ反省した。時間がない、会議があるなど言い訳に過ぎないと感じアプローチを変えて、捉え方、思考を変えたいと思いました。すごく良かったのでスタッフへ伝えたい。

・一人一人の力を最大限に活用し、患者のために最大限の幸福を目指して多職種カンファレンス、ACPグループの立ち上げ頑張ります。

・これまで"専門職として"どう身寄りのない人を支援していくのかという研修には参加してきました。今回、患者様の気持ちを主体に！物語を考えて意思決定を支援するという内容は初めてでしたので、患者様のこれまでの人生ストーリーを意識して関っていこうと思いました。参加して良かったですし、身寄りのない方も多い当院にも倫理について教えに来てほしいと思いました。

・職種の異なる方々の意見が聞けて良かったです。テーマである専門家としての最大限の倫理を妨げている要因について振り返り、チームとして提言し教えていけるようにしたいと思います。

・本人がACPを主体に取り入れるためには、どうするか？悶々としました。

・今までの自分の経験と照らし合わせて振り返ることができ、その中で改めて気づかされることがたくさんありました。真の多職種連携を妨げる要因について、もう少し掘り下げて考えていきたいと思いました。

・グループ内や他のグループからいろいろな方向の話が聞けて学ぶことが出来ました。家族に負担をかけすぎない、求めすぎないことの大事さを学びました。本人を中心とした考え、支援していくことを改めて学べました。

・普段自分たちが行っていることが最低限の倫理であり、業務に追われ最大限の倫理を目指すことを諦めているのだと知ることができた。職種によって意見も考え方も違うが、「本人の意思を推定する」ことを忘れているように感じた。明日からすぐに活かせるヒントがたくさんあった。

・色々な現場の専門職の意見が聞けて良かった。先生の話も初めて聞けて良かったです。

・事例を通して議論すると、専門職がゆえに本人を蔑ろにする部分があることを知りました。自分が変わる覚悟で相手に向き合う態度を忘れないようにします。その方の幸福は探っていかないと分からないことを知りました。

・相手を変えるのではなく、「自分が変わる覚悟で相手に向き合う」ことの大切さを知ることができました。グループワークで大変勉強になりました。

・ケースを通し患者とどう向き合うべきか、意向を問う、タイミングや関わり方を学ぶことが出来ました。

・知らず知らずのうちに私自身も「キーパーソン病」に陥っていることに、ハッと気づかされました。患者さんの幸福のために患者中心を念頭に多職種で悩み、話し合い考えていくことがいかに大切か知ることが出来ました。自身を変えることや一歩踏み出すことで患者さんや私たちも幸福（最大限の倫理）を生み出せることを信じて頑張っていきたいと思います。

・最大限の倫理を目指すことが専門職としての責任であり、互いに出来ることを補い合って考えることの重要性を知ることができました。常に自身に問いかけていきたいと感じました。

・ファシリテーターが上手に進行し、話しを全員が出来るように配慮していた。講師が話しに入ってファシリテートすることで、議論が活発になった。

・あまり直面する場面は少ないが、確かにキーパーソンと疎遠の利用者がいます。本人の意向を大切にしながら、最大限の倫理が達成できるようにしたい。

・この会が医療的アプローチではなく、患者中心の想いを重視したアプローチの勉強会でした。新鮮であり金城先生のコメント、誘導が素晴らしい。教科書に書いていない大切な点あり。